

(別紙様式)

都道府県番号	24
都道府県名	三重県

()
該当する観点にチェックをすること

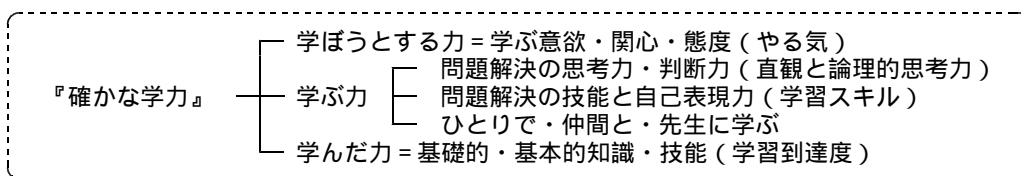
・学校名及び規模

尾鷲市立輪内中学校					
	1年	2年	3年	計	教員数
学級数	1	1	1	3	7
生徒数	24	22	19	65	

・実践研究の概要

1. 主題

『確かな学力』の形成・定着・向上
= 「学び」の創造を通して =



『学力保障』の構造

学ぼうとする力・学ぶ力・学んだ力の形成・定着・向上		
やる気（意欲、自信）	相互理解・援助	課題・探究・表現
自尊感情	学び合う共同体	授業づくり
人、もの、こととの出会い・ふれ合い・学び合う多様な学習活動		

2. 内容与方法

(1) 研究推進実施学年・教科・領域・分野

『学力』が形成されていく原動力に自尊感情や自己肯定感から生まれる自信ややる気があるととらえ、それらを引き出すための教科・領域・総合的な学習の時間等での多様な学習活動を全学年で推進する。
(4年前から豊かな体験活動を基盤として、自尊感情や自己肯定感を引き出す取組を展開しているため)

「学んだ力」「学ぶ力」「学ぼうとする力」を相互に響き合わせながら「確かな学力」の定着をめざしていく研究を総合的な学習の時間と教科を関連させながら、技術家庭科と英語科は全学年、理科は1年生を中心に推進する。
(技術家庭科はものづくりを中心とした体験活動を通して、「学ぼうとする力」「学ぶ力」「学んだ力」の総合化に実績がある。英語科は生徒の「学ぼうとする力」「学んだ力」に差が生じやすく、「学ぶ力」とくに自己表現力を育てながら「確かな学力」を定着・向上させていく研究を進めている。1年生は学習習慣の確立していない生徒が多いが、実験や観察に興味関心を持っている。「学ぼうとする力」を引き出す中で、「学ぶ力」「学んだ力」の定着・向上につなげたいため)

全学年の生徒を対象に中学校修了までの国語と英語の読み・書き、算数・数学の計算技能と各教科の内容を理解できるための最低限の知識（言語事項）や技能（処理能力）の定着について研究を推進する。

中学校修了までの生活経験や既習事項（知識、技能）を関連づけながら問題解決のための方法を考えたり、まとめたり、発表したりするために必要な思考力、判断力、表現力などの定着について研究を推進する。

『学力』を向上させていくための支援・指導としての仲間との学び合い、授業づくりなどの研究を推進する。

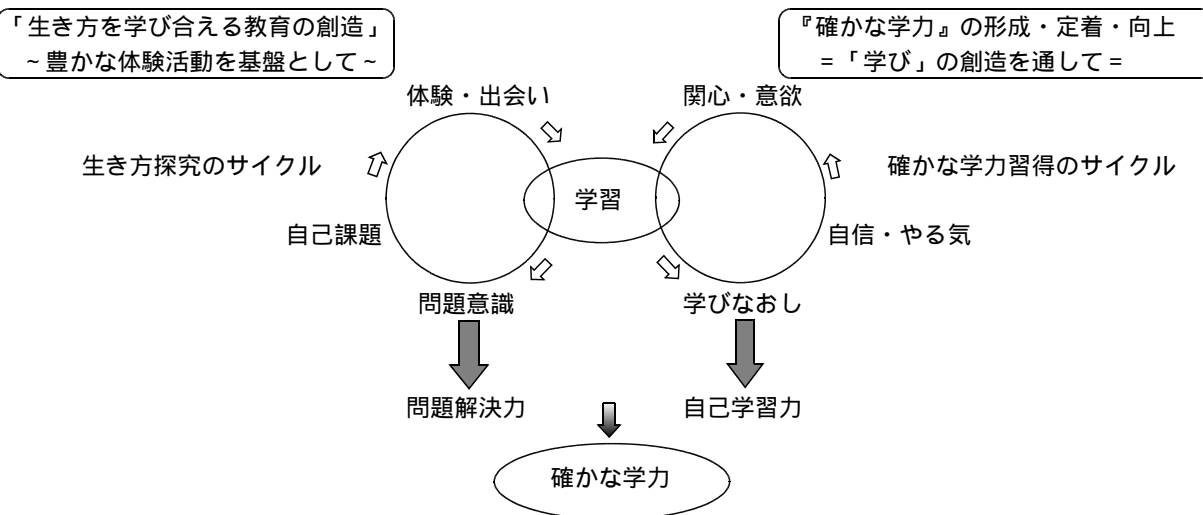
(2) 年次計画
 <平成14年度>

テーマ 「学ぼうとする力」「学ぶ力」「学んだ力」の響き合いによる「学び」の創造
 学習シートによる基礎・基本の定着

仮説

総合的な学習の時間や教科での多様な体験や学習活動は、問題意識や関心を高め、「学ぼうとする力」「学ぶ力」「学んだ力」と響き合い、「確かな学力」形成の原動力となり、基礎・基本の定着を促進するであろう。
 また、自信ややる気を引き出す学習シートの開発は、基礎・基本の確実な定着を図るであろう。

<互いに関連し、機能し合う教科と総合的な学習の時間>



研究内容・方法

『確かな学力』形成の原動力の研究

互いに関連し、機能し合う教科と総合的な学習の時間での「学び」の創造

技術・家庭科でははっぴづくりを中心にして、「学ぼうとする力」「学ぶ力」「学んだ力」の関連を探る。
 英語科では生徒の「学ぼうとする力」「学んだ力」の差を克服するために、「学ぶ力」とくに自己表現力を
 育てながら「確かな学力」を定着・向上させていく研究を進める。また、Human Time 「防災」プログラム
 と理科で「学ぼうとする力」「学ぶ力」「学んだ力」の響き合いを研究する。

基礎・基本の定着のための研究

「確かな学力」の核となる基礎的・基本的知識・技能の定着のための授業づくり、教材開発の推進

1年生の理科では学習習慣の確立していない生徒に対し、基礎・基本を明確にしなが「学ぼうとする力」
 を引き出し、「学ぶ力」「学んだ力」を形成・定着させていく授業づくり、学習シートの開発を進める。
 また、それらを英語科をはじめ他教科にも広げ研究実践していく。

- 1) 基礎・基本について協議
- 2) 中学校教育における「基礎」「基本」の明確化
- 3) 基礎・基本の定着のための授業づくり、教材の開発
 - ・ワークシート(学習内容の理解に必要な知識・技能の定着を図る)
 - ・マスターシート(知識・技能の関連づけにより基本の定着を図る)

・平成14年度の成果及び課題

成果

『確かな学力』形成の原動力の研究に一定の成果が確認できた。

技術・家庭科でははっぴづくりを中心に、「学ぼうとする力」が引き出され、授業後の自己評価、授業評価、感想などから「学ぶ力」「学んだ力」の向上がみられた。

英語科では生徒の「学ぼうとする力」「学んだ力」の差が縮小し、「学ぶ力」とくに自己表現力が高まった。また、初回の実力テストの本校の平均点は、全受験者の平均から+4点程度であったが、3回目は+8.5点となった。中学校教育での基礎・基本が明確になった。

基礎・基本の定着のための研究が進んだ。

学習指導要領、評価規準表、教科書をもとに1年理科の基礎・基本を明確にし、INPUT、PROCESS、OUTPUTという考え方で「学ぼうとする力」「学ぶ力」「学んだ力」を形成・定着させていく授業づくりと学習シートの開発を推進。なかでもワークシート、マスターシートは「確かな学力」の核となる基礎的・基本的知識

・技能定着のための教材で、「学びなおし」の場で活用することによって、CRTを参考にして作成した単元の評価問題で実現状況判定得点率が80%以上を維持。また、評定2以上の生徒が95%に伸びた。

また、英語科でもINPUT、PROCESS、OUTPUTを大事にした授業を進め、「学びなおし」の場を設定しながら基礎・基本の定着、表現力の向上に取り組み、生徒たちの自己評価などからその成果が確認できた。

課題

基礎・基本の定着を図るための「学びなおし」を位置づけた授業計画、日課、時間割の工夫
保護者や全生徒を対象に「学力」に対する意識調査を定期的に行い、課題を整理しながら研究を推進していく
小規模校のため、各教科の指導内容を深め検討することが難しく、その方法を模索中

基礎・基本の内容とその定着についての小学校との連携の強化

研究対象の拡大

各教科、領域での実践交流を深めながら、研究対象学年を全学年に拡大。また教科（英語、理科、数学、社会、国語）や領域での基礎・基本の定着の研究も推進していく

学力テストの実施

教研式全国標準学力検査、教研式標準学力検査の2種類の検査を全学年、全生徒に実施し、分析をすすめる
研究推進のための教職員の加配

・学力把握のための学校の取組について

小規模校の特質を生かして、個々の学力実態をできるだけ詳細に調査し、基礎・基本の定着を図りながら、個々に応じた指導とその成果や課題を明らかにしていく。

評価規準表にもとづいた評価問題を作成し、単元テストとして実施

観点別評価のデータを集積、分析して、個々の指導にあたる

自己評価を実施

小論文、作文、面接の実施

全学年学期末テストの実施（学期1回、年3回実施）

3年生実力テストの実施（年3回実施）

来年度全学年で学力テストの実施（1学期、3学期の2回実施）

・フロンティアスクールとしての成果の普及について

8月21日（水） 紀北教育研究会理科部会で「基礎・基本の整理と明確化について」報告

8月26日（月） 尾鷲市教頭会中学校部会で「学習シートと基礎・基本の定着について」報告

9月12日（木） 三重県学力向上フロンティアスクール実践交流会で「21世紀を拓く学校づくり」

～「学ぼうとする力」「学ぶ力」「学んだ力」の響き合いによる「学び」の創造～

～学習シートによる基礎・基本の定着～を報告

10月15日（火） 第1回学力フロンティア事業尾鷲地区学力向上推進協議会で「輪内中学校の学力の考え方、基礎・基本の確実な定着に向けて」の取組について報告

1月29日（水） くろしお教研課題別部会で「互いに関連し、機能し合う教科と総合的な学習の時間での『学び』の創造」を報告

2月17日（月） 第2回学力フロンティア事業尾鷲地区学力向上推進協議会を本校で開催し、これまでの研究にもとづいた「英語の授業公開」を行うとともに「評価規準表にもとづいた基礎・基本の明確化と授業づくり、教材開発」「今年度の研究の成果と課題」を報告予定

2月19日（水） 基礎学力向上モデル市町村事業の研究協力校御浜町立尾呂志学園小中学校で「小中学校を通しての基礎学力の向上をどう図るか」を教頭が講演予定

3月下旬 中間報告「『確かな学力』の形成・定着へのアプローチ」を作成し管内各校へ配布予定